

2017年(平成29年)10月21日(土)

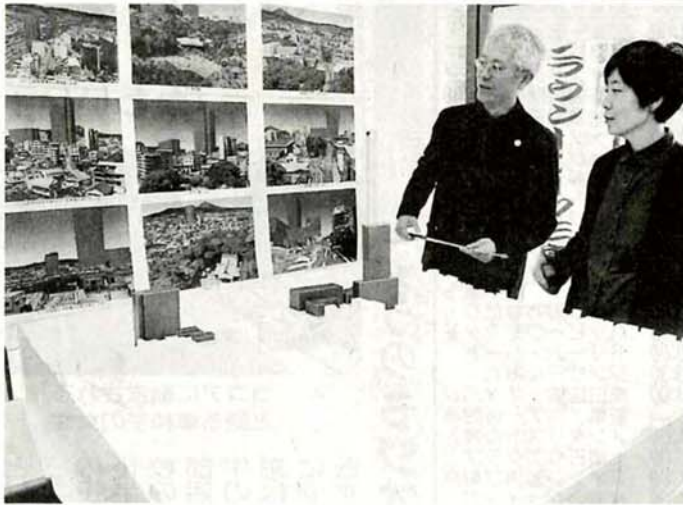
# 三島駅南口再開発事業 完成後の模型とCG作製 GW三島 事業延期へPR

三島市が進める三島駅南口再開発事業について、完成後の模型とコンピューターグラフィックス(CG)をクラウドワーク三島(GW三島)が作製し、20日報道機関に公開した。GW三島は事業の延期を求めており、完成後の姿を模型などで示すことで市民の理解

を深めるのが狙い。事業は、南口の東街区(1・3杉)と西街区(0・5杉)を再開発する。模型は、市のモデル案を元に建築意匠が専門の岩岡竜夫・東京理科大学教授が作製。南口の600坪四方を500分の1の縮尺で再現した。CGは、バーチャル地球儀ソフト「グーグルアース」の画像に、建物を落とし込んだ。

GW三島は、富士山の景観を阻害する▽財政負担が重い▽地下水に影響を及ぼす—などの理由で延期を求めている。渡辺豊博専務理事は「県の補助金を活用し、人件費や資材費の下落が予測される数年後まで待てば、安価でより良い再開発ができるはず。市民が街の将来を冷静に考えられるように可視化を図った」と説明した。

GW三島は28日午後2時、同市大宮町の三島市民生涯学習センターで模型とCGを市民に見てもらい、事業の概要と問題点を説明するセミナーを開く。問い合わせはGW三島(0555・9833・0136)。(石川宏)



JR三島駅南口の再開発後の模型とCGについて説明する東京理科大学の岩岡竜夫教授(左) 三島市芝本町のクラウドワーク三島で